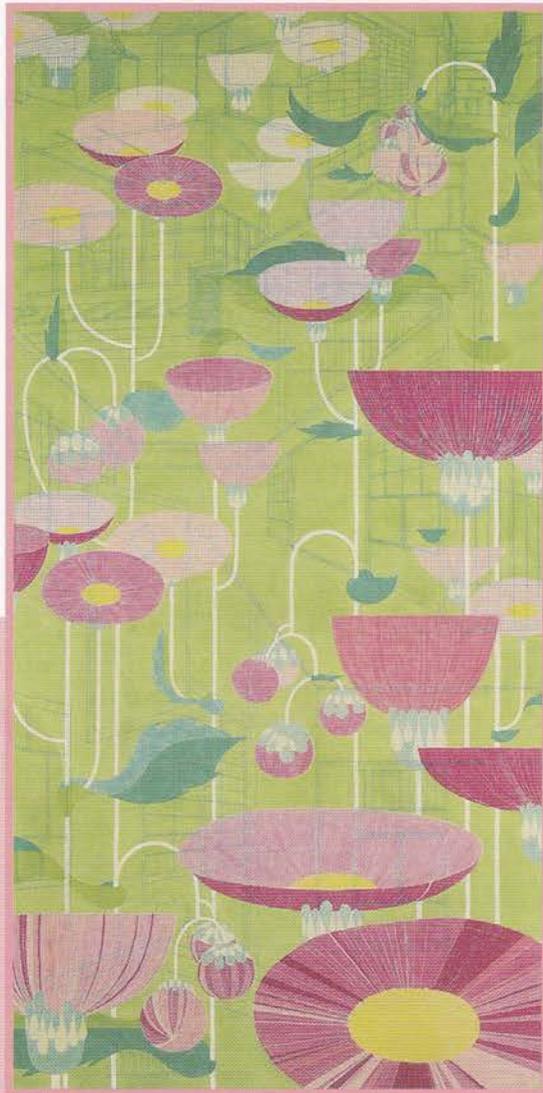


ちぐさ



# CHIGUSA

戸板女子短期大学同窓会千草会

Vol. 67



# 校訓

## 知 好 楽

---

子曰く

之を知る者は

之を好む者に如かず

之を好む者は

之を楽しむ者に如かず

論語（雍也第六）

---

### 校訓 知 好 楽

ものごとはすべて対象を「知る」ことから始まる。「知る」ことによって「好き」になれる。対象を知って好きになり、はじめて人は「楽しみ」ながらその本質をつかむことができる。

『戸板学園百周年記念誌』より



# CHIGUSA

Vol.  
67

ちぐさ

戸板女子短期大学同窓会千草会

## 目次

- |  |  |  |
|--|--|--|
| 表紙 染色「回帰」  | 被服科35回   | 平林 芳子                                    |
| 表紙 (2) 校訓 知好楽  |  |  |
| 2 ご挨拶 千草会の未来に向けて   | 会長   | 小林 操子                                    |
| 3 創立者戸板関子先生を道標にして  | 学長   | 白川はるひ                                    |
| 4 私の教育に対する心構え  | 服飾芸術科科长  | 井上 近子                                    |
| 5 食物栄養科の未来と進化  | 食物栄養科科长  | 川嶋 比野                                    |
| 6 120年の歴史とともに<br>あらたな歩みへ   | 国際コミュニケーション学科<br>学科長                                       | 松井恵美子                                    |
| <b>人物紹介</b>  |  |  |
| 7 素敵な仲間と共に   | 生活科30回   | 石森 紀子                                    |
| 8 私の履歴書  | 英文科47回   | 山田 美香                                    |
| <b>広がる輪</b>  |  |  |
| 9 お便りコーナー<br>人生の最高の宝物<br>日本刺繍と出会って<br>今の私ができるまで<br>志とすること<br>育児の合間のイタリア語 | 被服科42回<br>被服科45回<br>食物栄養科15回<br>英文科33回<br>国際コミュニケーション学科12回 | 古谷奈穂子<br>森 綾子<br>山宮 香澄<br>富田 昭子<br>竹本 美咲 |
| 11 交流会報告<br>宮崎県支部<br>北部九州支部<br>支部紹介                                      | 生活科18回<br>被服科14回   | 江藤 博子<br>松尾寿々子                           |
| 12 戸板栄養士会だより   |  |  |
| <b>かんたんレシピ</b>   |  |  |
| 楽々ごはん Vol.5  | 食物栄養科5回  | 井上 慶子                                    |
| <b>学園だより</b>   |  |  |
| 13 TOITA Fes 2022  |  |  |
| 14 学生生活  |  |  |
| <b>会務報告</b>  |  |  |
| 16 行事報告・会計報告・奨学生   |  |  |
| 19 悼む 新井一彦先生<br>増田節子先生   | 英文科23回<br>英文科41回   | 山口 順子<br>三輪夕里子                           |
| 20 悼む 星野厚子先生<br>永眠者  | 生活科36回   | 西山 良子                                    |
| 表紙 (3) 入試・広報部からのお知らせ   |  |  |

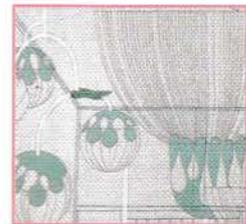
表紙



染色「回帰」

第57回日本現代工芸美術展  
(2018年)に出品

裏表紙



制作途中の部分

作品「回帰」は、友禅染の技法を用いて制作しています。友禅染は着物や帯のイメージがありますが、この作品は屏風のような工芸美術として制作しました。友禅染の特徴でもある糸目糊(もち粉と米糠で作り、色と色の境目に色が滲んで出て行かないように防波堤の役割をするもの)を置くことによって現れる細く白い線を活かすことを常に心掛けています。大地が切り拓かれ、そこに人々の生活が営まれていく。長い年月を経て、主人を失った家はやがて朽ち果ててしまうが、いつしかそこにはまた草花がよみがえり、元の大地へと戻っていくような大地の循環する様子をハルジオンをモチーフに表現した平面作品(200cm×100cm)です。この作品では白い糸目の線に加えて、青色の糸目糊を使用することにより作品の奥行きを表現しました。

被服科35回  
平林 芳子



千草会 会長  
小林 操子



## ご挨拶 千草会の未来に向けて

千草会会員の皆様、お変わりなくご健勝にお過ごしのことと推察申しあげます。平素は同窓会千草会のためにご支援・ご協力を賜りまして心より御礼申しあげます。

コロナ禍での生活は三年を迎え、不安を残しながらも少しずつ以前の日常へと戻ってきております。千草会の運営も六月の幹事会や、七月の常任幹事会など、三年振りで対面での会議を開くことができました。どうしてもメールや郵送などで議案を審議することには、どこかしらを感じておりましたが、直接お会いしてご意見を伺いながら議案を進めることは、大いに大切であることを改めて確認いたしました。

今年度の活動として特別な行事はなく、例年通り粛々と進めておりましたが、ただ残念なことは栃木県支部と福島県支部が休会になったことでした。支部会への参加者の減少や幹事様の高齢化などに伴い、後継者の引き受け手がないことなどが大きな要因でした。

他の支部からも同様の問題提起を受けております。千草会の根幹の一部であり、千草会を支えてくださっている支部活動は重要と考えられておりましたので、今後に向けての大きな課題となっており、九州支部と宮崎県支部では三年に一度の支部会が開催されました。幹事様のご尽力に感謝いたしております。

また、今年度はTOTTA Fes 2022への参加を取り止めました。学生たちの発表の場でもあり賑やかなお祭りでもある学園祭に、千草会としてそれなりの企画でブースをいただき、卒業生をお迎えし、在学生とも交流できる場として参加することが大切な行事の一つでした。しかし、コロナ禍などの影響により多くの方々に来室していただけのような、適切な企画を立てることができず断念いたしました。今は、次年度のTOTTA Fes 2023には必ず参加することを約束して、ご来校をお待ちしたいと思っております。

ります。

戸板女子短期大学では今年度四月より学長先生始め三学科の科長先生方が新任されました。新学長には白川はるひ先生、服飾芸術科科长には井上近子先生、食物栄養科科长には川嶋比野先生、国際コミュニケーション学科科長には松井恵美子先生がご就任されました。学長白川先生には千草会の名誉会長として六月の幹事会でご挨拶をいただき、井上先生には「ちぐさ」六十二号にご寄稿いただき、お待ちしております。また、今号には先生方に学校として、学科としての教育方針や目標などもご寄稿いただいております。戸板女子短期大学が伝統を守りながらも、時代が求める教育で発展していく様子にご期待いただけます。

前任の学長小林千春先生や服飾芸術科科长小泉きよみ先生、食物栄養科科长谷口裕信先生、国際コミュニケーション学科科長佐藤美帆先生には多方面でご協力をいただき、在任中のお礼と

もに、益々のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

今、世界は様々な国で紛争や戦争が起きております。また、地球規模の天候異変で干ばつや水害など、新聞やテレビのニュースを観る度に心が暗くなります。例えばウクライナとロシアの戦争は遠い国の話ではなく、あらゆる意味で全世界の国々に影響を及ぼす問題です。また、そこに暮らす人々のことを思うと心が痛みます。思想や宗教などが異なっても認め合い、平和に暮らすことのできる社会になることを願わずにはいられません。

しかし、暗い気持ちばかりでは未来は明るくなりません。千草会には小さな世界ですが、前に向けて少しずつでも改革しながら発展をしていくことを目指しております。ここ数年、常任幹事には若い方も増えました。年齢差を超えて活動できるのが同窓会です。同窓会には高齢者の集まりとの認識を改めていただき、決して未来を諦めず、同窓生のお力をお借りしながら、母校の繁栄を願い、次の世代に託していきたいと考えております。

これからも同窓会千草会へのご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。皆様日々生活の穏やかに過ごされますよう祈念しております。

(被服科十八回)



学長  
白川はるひ



## 創立者 戸板関子先生を 道標にして

千草会の皆さま、平素は本学の教育へのご理解、学生へのご支援を賜り誠にありがとうございます。

二期六年間の任期満了でのご退官された小林千春前学長の後任として、今年度より学長職を拝命いたしました白川はるひと申します。何とぞよろしくお願い申し上げます。

私が入職いたしましたのは二〇一〇年四月です。二〇一二年度からは総合教養センター長として、多くの方に支えていただきながら、教養教育、入学前教育、学習支援体制の整備等に携わってまいりました。そのようななかで、私が創立者の戸板関子先生と嬉しい「出会い」をさせていただきましたのは、二〇一三年のことです。講義のなかで日本の明治・大正・昭和初期の歴史概要を扱う際に、これを関子先生の足跡と重ね合わせながら説明してみようと思ひ立ち、その準備のため、『戸板学園八十周年記念誌』、『戸板学園90周年記念誌』、『知・好・楽』戸板学園の100年』

を拝読いたしました。読み進めてすぐに、私の祖母の母校であり、私が教育実習先としてお世話になった成女学校(現成女学園中学校・成女高等学校)の創立に、戸板裁縫学校を開学される前の関子先生が携われていたという文を見つけ、大変嬉しい驚きとともに、誠に不遜ながら勝手にご縁を感じました。そして何より、記念誌を拝読するほどに、関子先生の知性、決断力、行動力、先見性等々、その至大なる人間力に感嘆し、尊敬の念は増すばかりでした。

この四月からは、二二〇年という伝統の重みをより一層感じる日々を過ごしており、関子先生に思いを馳せる時間も多くなりました。良妻賢母教育が当たり前の時代に、女性の自立と人間形成を謳って裁縫学校を建てられ、その規模を大きくされながら教育を全うされていくなかで、どれほどの困難があったことかとあらためて記念誌を読み返しておりましたとき目に留まったのは、困難を解

決することをおもしろがっておられたという『戸板学園八十周年記念誌』のなかの文章でした。関子先生のお人柄にますます敬服するとともに、このような胆力は、これからは生きる学生たちにも必要な力と思ひ、学長講演のなかでもふれさせていただきました。

女性が社会進出するようになって久しくなりましたが、新型コロナウイルス感染症蔓延による不況が「女性不況」とも言われましたように、不況の事態が起こった際に、経済的に苦境に立たされる女性が多い現実もまざまざと見せつけられ、本学でも就職活動で軌道修正を余儀なくされる学生は少なくありませんでした。また新型コロナウイルス感染症を契機に生き方や価値観はさらに多様化しています。変化が激しく予測困難なこれからの時代を生きて行く学生たちに、我々はこのような教育の場を提供し、どのような力をつけて卒業させるべきなのか、議論を重ね、改革改善を継続していかなければなりません。幸い、

「学生のために」と、時代の変化に柔軟に対応して尽力してくれる教職員が数多くおり、正課でも正課外活動でも、学生が挑戦できる環境や支援の場は増えております。そうしたチャレンジの場に飛び込み、明るくひたむきに取り組んで成果や成長を見せてくれる学生を私は心から誇りに思います。そして、ときにはくじけそうになりながらも最後まで懸命にやりきる学生と、それを支援する教職員が作り出している、凛としながらも温かく和やかな空気は、関子先生や青木あさ先生をはじめ、これまでの教職員の皆さま、そして、卒業生の皆さまが作り上げてこられた宝物の校風であると感謝しております。

短期大学にとって大変厳しい時代ですが、先陣を切って新しい女子教育の場を作り上げられた関子先生には遠く及ばないながらも、関子先生の教育にかけた思いやその大きな人間力を想像し、道標として、女性の自立と人格形成のために微力ながら尽力していきたいと考えております。

今後とも本学学生のために変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



服飾芸術科 科長  
井上 近子



## 私の教育に 対する心構え

国内における大学入学希望者総数は、令和五年あるいは令和六年あたりから、入学定員総数を下回り、名実ともに「大学全入」時代に入る。主な要因としては、十八歳人口が減少する中で、入学定員数が増え続けてきたことなどが挙げられる。大学は長年にわたり、売り手市場で学生を選ぶ立場を取り続けてきたが、これからの時代は学生に選んでもらう買い手市場へと変化していくことが現実のものとなってきた。

このような状況においては、大学間における競争の原理が活発になることで、大学間格差はさらに鮮明に広がることになり、社会や企業の大学に対する評価も一段と厳しいものになるだろう。

近年、本学でオープンキャンパスを開催すると、学生や保護者から良く質問をされる事項がある。それは本学の就職状況のことである。入学志願者を入口（入試）でなかなか絞ることが困難になった時代においては、出口（卒業）で、どの

ような付加価値をつけて社会に送り出すことが可能であるのかを、教職員一同、真剣に考えていかねければならない。

日頃から学生とコミュニケーションを取っている教員は、教室において学生の学習効果を高める講義を行うために、学生に対して正しい勉学の態度を守らせ、集中力を維持させることの努力が求められる。教員が行う講義内容に興味を持たせ、分かりやすい言葉で専門用語の解説などに創意と工夫をすることが大切である。したがって、学生がお互いに刺激し合って知識を高められるような環境や雰囲気作りが重要となってくる。

特に私が取り入れている方法としては、講義終了後に小テストやリアクションペーパー、レポート提出を頻繁に実施しており、必ず講義開始前にその旨を学生に伝えておくことにしている。もちろん小テストは、次回の講義で解説することを心掛けている。一方よく

まとまっているレポートについては、学生に発表してもらう時間を設けている。その場に選ばれた学生は、秘かに誇りと自信を持つことができ、なお一層の勉学に励むことになるだろう。また、他の学生は、この程度のレポートならば、自分もできるといいうる気を取り直し、その後の勉学を積極的に行き組んでもらえるのではないかと考えている。

私はこれらの環境を作ることによって、学生の講義に対する姿勢やノートを取る意気込みが違ってきている。私にとっては、学生の理解度を測定できることや授業の進捗状況を把握すること、さらに講義内容の見直しにおいて重要な指針となっている。

人間は、本質的に変化することをお好まない生き物のようである。変化をお好まない根拠としては、変化した後にどうなるのかわからないと言ふ懸念を抱くこと、変化することへ骨惜しみしてあまり働か

ないこと、あるいはその両方であると言われている。現実の社会環境では、コロナ禍や円安、インフレーションなどで人々の生活は変化している。学生に対しては、時の流れとともに物事や状態が移り変わって行くことを理解させることが必要であり、教員は、学生自身の利益に繋がることを、合理性に訴えて得心させるような講義を心掛けることが大切となってくる。

本学は、これからも実社会のニーズに応じて、社会に通用するレベルの学生を輩出できる教育機関へと前進して行かなければならない。私たちは、ビジュアル化された情報を見て理解したつもりで、実際に何も得ていないことがないように、十分な注意を払い、議論を展開して実行していくことが大切である。これからも未来に向かって、カリキュラムの差別化、教育の改革や改善、内部組織や制度の変革などに取り組みすることが重要であると認識している。

同窓会「千草会」の皆様には、大学運営が困難な状況になった時でも、本学を支えていただき、母校を愛する気持ちに心から感謝申し上げます。本学が輝き続けるために、一つひとつを大切に、現実と乖離しないよう邁進する所存でございます。どうぞ、本学に対する貴重なご意見や心溢れるご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



食物栄養科 科長  
川嶋 比野

今年度より、食物栄養科の科長を拝命致しました川嶋と申します。この度は、千草会の皆様にも本学の状況と今後の方向性について、お伝えさせていただきたいと存じます。

近年、少子化等により私達が当たり前と思っていた大学の姿は大きく変わっております。本学だけでなく、どの大学でも今、改革が求められています。

私自身はそもそも、「自分は企業向きの人間ではなく、教育が天職である。利潤にこだわる事なく、純粹に学生の成長になるために必要な事をコスト等に妥協せずに出るのが教員という仕事だ」と考えておりました。しかしながら、今日では、そのような考え方は大学経営が成り立たない時代となり、教員にも経営的な視点が求められています。

利潤という考えは教育と相反するイメージがあり、最初は抵抗がありました。よく考えてみれば、学校も「学生」という顧客が「自身の成長やより良い就職先の確保」



## 食物栄養科の 未来と進化

を目的として入学するわけですので、我々教職員は、顧客満足度が上がるよう、「学生を成長させるカリキュラムやプログラム」を提供出来る努力をするのが当然の事であり、その評判や実績が出れば、次の入学生がたくさん来て、経営は安定する。反対に、顧客満足度が低ければ、定員割れして、経営状態はどんどん悪くなる。つまり、教育と経営の目的は、同じ方向を向く事が出来るのだと最近気が付きました。企業では近年、ブランディングという考え方が浸透しています。ブランディングの基本的な考え方は「企業が売りたい物を顧客に売るのでなく、顧客が欲しい物を企業は提供するべきである」というものです。

食物栄養科は元々、「集団給食等で様々な人々の食と健康を支える」という教育カリキュラムを売りとしたい、だからこれまで栄養士の素晴らしさ、やりがい、国家資格の強み等をオープンキャンパス等で一生懸命伝えて、学生を集めて来

ました。しかし、年々受験者数は減少しており、ニーズは確実に縮小してきます。そこで本学にも、ブランディングの考え方を取り入れる必要が出てきました。つまり、顧客（高校生）が欲しいものを提供できる短大になろう！という事です。そして昨年、カリキュラム戦略会議というものが立ち上がりました。食物栄養科は栄養士養成である事は変えられませんので、それを軸に、現代の高校生がなりたいたいと思ふ将来像を提示し、戸板に入ればそれが出来る！という広報をかけていきます。もちろん、それを実現する為のカリキュラムやプログラムを作り込み、先生方も新しい教育のための授業計画を立てます。とてもパワーのいる事なので大変ですが、一丸となって前向きに向かつて行く戸板が私は好きです。そして、今後食物栄養科が目指す目標が先日決まりました。それは「ダイエットについて学ぶなら戸板だよね」というイメージを世間に定着させる事です。栄養学を学ぶと同時に、ビューティアドバ

イザーとして活躍するゲスト講師の先生の指導も受けながら、在学中にも自分自身がまずはキレイになれる。そして、自身が学んだ事を活かして「他人へも、キレイになるためのアドバイスや指導をする事が出来るキレイな女性」になる事が出来る。これを将来像として高校生へ提示し、戸板に入ればそのノウハウや知識を手に入れられる事を伝えていきます。ダイエットは摂食障害等とも紙一重で、健康を脅かすこともあります。だからこそ、本物の知識を持った栄養士がダイエット・ビューティアドバイザーになるべきなのです。それゆえに、この新しいカリキュラムを学ぶモデルコースを『ビューティ&ウェルネスモデル』という名称にしました。

皆様によって支えられて来た戸板の伝統を守るためにも、戸板は変革・進化していきます。今後ともご指導ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。





国際コミュニケーション学科  
学科長

松井 恵美子



# 一一〇年の 歴史とともに あらたな歩みへ

戸板女子短期大学の二二〇年という節目の年に、この度、国際コミュニケーション学科の学科長を拝命いたしました。本学の長い歴史に比べるとまだまだほんの少しの時間しか関わってはおりませんが、国際コミュニケーション学科が日々目まぐるしく変化していく世の中に対応できるような、今後も精進してまいりたいと思っております。

ご存知の通り、全国的に少子化のスピードに拍車がかかり、短期大学のおかれていく状況も厳しくなっております。グローバル化だけでなくあらゆる場面において多様化していく中、より一層、学科として世の中のニーズに合わせて、スピーディーに対応していかなくてはなりません。また学生たちがここ戸板での二年間の学びを通して、世の中に柔軟に対応できる力を身につけられるよう、どのような学びが良いのか、常に教員側も見直しをする柔軟性も求められております。二〇二〇年のコロナの

影響を受け、エアライン業界への就職はここ二年ほど低迷しておりました。二〇二二年になり、少しコロナが落ち着いたらと同時にエアライン業界の採用も動き始め、本年度はANAやJALなどの大手航空会社のパイロットやグランドスタッフをはじめ航空業界から多数内定をいただきました。コロナ禍にあっても学生たちが自分たちの進みたい夢に向けて日々努力してきた結果だと思えます。ホテル業界も『シャングリ・ラ東京』『パークハイアット東京』などのラグジュアリーホテルへの内定者も増えております。ホテル・ツーリズムモデルにおいてはさらにホテル・ブライダル業界に就職できるような、ホテル・ブライダル・ツーリズムモデルとしてカリキュラムを刷新し、授業内容を強化していく予定でございます。

国際コミュニケーション学科で学ぶことのできるほかのモデルにおいても、より優良な企業に就職できるような企業が求める人材育成のため令和五年度より大きくカリキュラムを変更いたします。また短期大学の二年間を終え、就職という進路だけではなく、編入学として海外留学先の選択肢も増やしていく予定です。短期大学での学びを活かせる留学先としてすでにいくつかの海外の大学と協定を結びました。

一方、本学の学びはただ就職をするためだけではありません。『といたん』はじめ学内の活動、産学連携などの授業を通して互いに協力し合いながら物事を進める力、問題を発見し、それらを解決していく力など人生において大切なことを学ぶ場でもあります。またこのグローバル化と多様化の時代、常に日本国内だけでなく世界に目を向けていく力も養って行く場であってほしいと思えます。二〇〇〇年から十年間、第八代国連難民高等弁務官であられた緒方貞子さんは次のようにおっしゃっております。「文化、宗教、信念が異なるうと、大切なのは苦しむ人々の命を救うこと。自分の国だけの平和はありえない。世界はつながっているのだから」。ロシアによるウクライナへの侵攻は未だに戦争の出口が見えていない状況にあります。そのような中、戸板の学生たちは平和に日常生活を送ることができています。自分のことで精一杯の時もありますが、感謝の気持ちとともに自分のまわりの人たちそして世界の人たちに目を向け、常に世界とつながっていることを忘れないでいてほしいと思えます。

末筆になりましたが、本学の学生の今後の活躍には同窓会のみならず、さまざまのご指導、ご鞭撻が必要です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



## 素敵な仲間と共に



生活科30回

石森 紀子

はじめに、新型コロナウイルス感染症への対応等で、学生、学校のために働かれている教職員の皆様、感染予防対策を含めご苦労が絶えない毎日と思います。不安や制約を抱え課題も多い中、今日に至るまでのご配慮ありがとうございます。いち早く事態が収束する事を祈っています。

私は八王子市犬目町の校舎を卒業して四十二年になります。当時、毎日が新鮮で楽しく、あつという間の二年間でした。在学中諸先生方、手作り食品部顧問の斎藤進先生、大和田啓子先生には大変お世話になりました。やまゆり荘での夏季セミナーや甲州街道にて第一回八王子いちよう祭り発足にあたり、部員が奮闘したことを思い出します。卒業後もメンバーで年一回食事会の開催で、子育て、孫育て、自身のことなど時を忘れ花が咲きます。還暦祝い後、コロナ禍となり携帯電話での連絡となりましたが、繋がっている安堵感と心温かくしてくれます。もう少しの辛抱と願っています。

私には愛しい妹がおります、母の健康を姉妹で支えてきました。そしてともに戸板を卒業して、それぞれ病院で栄養士として勤務していました。育児を機に二人共退職いたしました。私は兼業農家に嫁ぎ、当時、県の農業改良普及

員の勧めで農家の若いお嫁さんたちのグループ「あゆみ会」に加入しました。四季を通じ自宅で作られた野菜を使った料理講習、保存食品や味噌づくり、こんにやく作り、またおせち料理、夏祭りのおもてなし料理などレシピアイルは厚くなりました。時には太極拳教室もあります。今年も二月に仕込んだ味噌を先日の十一月末日に蔵から出し、一キロ袋に詰め分け七十二キロの味噌が出来上がりました。味噌作りは毎年市内の加工所で、材料の米麹も発酵機で作ります。大豆は津久井在来大豆で会員の家族が栽培されたものです。作業も最近では餅つき機で大豆と米麹を混ぜて作ります。工程は三日間かかりますが出来上がりが楽しみです。味噌づくりも気合が入ります。



味噌づくり (1)

我が家では夫が趣味で果実を栽培しています。いちじくコンポトやブルーベリージャム、ママレードを瓶詰めにもしています。ドライブフルーツにするとお料理の幅も広がりました。無理せずに仲間が許す限りの手作りはとても楽しいです。これからも仲間と共に色々な事にチャレンジしてみたいと思います。

私は平成九年から市の非常勤栄養士となり、現在は市立学校給食センターに週二、三日勤務しています。また地域高齢者さんの不安の声をお聞きして、何かお役に立てればと思いい研修を受けて、令和元年から市の介護サービスマン相談員として活動を始めました。現在市内の特別養護老人ホームと介護付き有料老人ホームの訪問活動で施設に伺い、利用者の不満や不安、疑問に気づき、きめ細かく対応し利用者の立場に立って、利用者と事業者の間の橋渡し役として、相談員訪問活動を続けていきたいと思っております。

常に新しい情報と正しい知識を持って、多くを勉強し活動していると思えます。これからも素敵な仲間と共に。



味噌づくり (2)



人生の最高の宝物

被服科四十二回

占谷 奈穂子

時代は、平成に変わり一年が過ぎた春に入学しました。そびえ立つNEC本社を背に、歴史ある重厚な校舎の門をくぐったあの日を今でも鮮明に覚えています。入学しすぐに硬式テニス部・部名「ZIGGURT」へ入部しました。新入生は八名でした。この八名が今なお良き友人仲間として交流が続いています。

同じクラスの友人とも遠方ながら連絡を取り合い繋がりが続いており、またクラス担当の片野靖子先生とは、ずっと年賀状でのやり取りをさせていただいています。素敵な出会いと繋がりがとても嬉しいです。

テニス部の思い出は、年二回の合宿で生活を共に過ごす中、絆が深まりました。秋の学園祭では、企画や買い出し、設営と全ての準備を整え、本番の二日間を無事に終え、いろいろと大忙しで大変でしたが、仲間達との協力で楽しい時間を過ごしました。

普段の部活は構内にある一面だけのコートで練習をしていました。コートから見える景色は素晴らしいもので、目の前にドーンと東京タワーがお出迎え、それは圧巻としか言い様がありません。日が暮れ、校舎の最上階にある部室へ戻ると、ライトアップされた東京タワーを窓から望むことができ、あまりの絶景にしばし眺めていました。

夏の炎天下や照り返し、手が凍えそうな冬の日の練習後は、この景色に心身共に癒されました。友人達と過ごした二年間の日々、心の中にクッキリと刻み込まれた懐かしい素敵な思い出となっています。

卒業後、テニス部仲間との集まりは、何十年と時が経っているものの、あの頃に心が戻り短い時間でも一緒に過ごすことで、明日への活力となりエネルギーチャージをさせてもらえます。

かけがえのない友人達、先生との出会いに心から感謝の気持ちでいっぱいです。「人生の最高の宝物」の一つです。

日本刺繍と出会って

被服科四十五回

森 綾子

被服科和裁クラスで初めて日本刺繍と出会いました。絹糸の光沢の美しさに惹かれて日本刺繍を選択し、卒業制作では反物に自ら考えた図案で刺繍をし着物を作りました。短大での二年間は課題が盛り沢山で目が回る忙しさでしたが、とても充実した学生生活でした。

故宮崎静花(通子)先生の素晴らしい刺繍に魅了され、卒業後も一般企業で仕事をしながら、先生のご自宅の教室に通うことになりました。「静花流日本刺繍」の特徴は色作りで、絵の具のように糸を数色混ぜ合わせて撚り、図案に合わせて多彩な色で、太い糸から細い糸までを使い分け写実的に刺します。とても繊細な作業で、仕事をしながらの作品制作は大変でもありましたが、作品が出来上がっていくのはとても嬉しいものでした。

細々と刺繍を続けておりましたが、結婚後に「よみうりカルチャー」で宮崎先生のアシスタントをしながら勉強させていただき、先生の後押しもあって講座を引き継がせていただいております。まさか、ただ好きなかだけ続けてきた日本刺繍を教える立場になるとは、学生の頃は考えもしませんでした。

更に先生のアシスタントとしてNHKの大河ドラマ「おんな城主直虎」の劇中に使用された刺繍作品の制作や、俳優陣への刺繍指導などにも参加させていただきました。また、先生が立ち上げた手工芸、工芸の団体に所属し、海外展や国内展にも出展したり、市などの公募展にも出しています。

日本刺繍と出会って、私の人生は彩り豊かになりました。沢山の方との出会いがあり、いろいろ貴重な経験をさせていただきました。これからも国内外の方々に、沢山の作品を見ていただき、日本の伝統工芸である日本刺繍の魅力を多く知っていただけるように、制作し続けていくことが、宮崎先生への恩返しにもなると思っています。

最後になりましたが、このような機会をいただき、感謝申し上げます。

今私ができるまで

食物栄養科十五回

山宮 香澄

私は二〇一六年新卒で「ホットヨガスタジオ LAVA」に入社しました。食物栄養科を卒業して、栄養士関係の会社説明会に参加させていだきましたが、自分の中でわくわくする気持ちや、そこで長く働いている自分の姿がイメージできず悩みました。そんな時大きな就職活動のイベントに参加してLAVAを知りました。

「好きを仕事に」という会社の理念にすごく魅力を感じました。現役ヨガインストラクターも参加していて、その方の普段の仕事の話も聞いて、楽しさややりがいをもっと感じ、その日のうちにこの会社で働きたいという気持ちが固まりました。しかし、体育系の大学に通っていたわけでもなければ、ヨガ自体経験がなかったため、正直不安もありました。そこでヨガのレッスン体験にいきました。汗を大量にかく心地よさはもちろん、自分の体と向き合う優しい気持ちに気づいて、もっとさまざまな人にこの気持ちを伝えたい、と不安よりわくわくの気持ちのほうが大きくなりました。

選考は、個人面接グループ面接、他に実技テストでした。何度も面接練習をしていく中で、自分の気持ちがいよいよ固まって整理できたので、練習はやってよかったです。実際の面接時は、私の意見を尊重して聞いてもらえるような状況で、楽しく話したのを覚えています。それもLAVAをさらに好きになった理由の一つです。内定をいただいていたから内定者アルバイトを始めました。あまり回数を入れていませんでしたが、先輩方みんなが優しく真剣に向き合ってくださったので、アルバイトの日が楽しみなくらいでした。正式に入社後、別の店舗に配属されましたが、フロント業務や新規対応など、教えてもらったことが活かして働きやすく自信に繋がりが、毎日がとても充実していました。

また、入社前研修にも参加していただきましたので、四月からはレッスンを任せられました。お客様は優しい方が多く、お客様に支えられて私のレッスンレベルが上がったと感じます。今は七店舗目です。店舗ごとの特色があり、客層も違い、求められるレッスンや必要な知識も違います。

お客様と関わっていると、伝えられることをもっと増やしたいと思うので、レッスン科目の資格取得や関連の勉強も続けられます。ダイエツトしたい、きれいなりたい、など意識が高いお客様が多いので、食事の質問も受けられます。その時が学生時代に学んだことが活かせるな、と思う時です。会話以外でも酵素のドリンクなど、ヨガ以外の体のサポート商品も販売しているため、知識が力になります。

今は店長になり、お店を引っ張る立場になりましたが、スタッフにもお客様にも支えられています。社会人になってより周りの人のありがたさを感じます。これからは成長できるような勉強を続け、誰かの力になれるよう、感謝の心を忘れずに過ごしていきたいと思います。

まよひのりん

英文科三十三回

富田 昭子

私が戸板女子短大に入学したのは昭和五十五年です。その頃東京では、ニュートラやハマトラファクションが人気で、格好良い人やかわいらしい人があふれていました。皆さんは短大での二年間に何が流行っていましたか。その頃を思い浮かべてみました。

熊本から上京し、初めて満員電車を知り、その後通学中に痴漢にあいました。初めての時は電車を降りた後泣きました。また駅前映画チケットのクーボン券(学生でも払える三千円也)を買い、まんまと騙されました。「田舎から出て来ましたと言わんばかりにキョロキョロしとるけんたい」と同郷の友人から叱咤激励されたものです。

私は双子です。姉も同じく戸板の学生でした。ある日の授業で先生の話が双子の事になり、「双子に講義をした事がない」とおっしゃいました。

「先生、ここに居ます」と言えませんでした。姉とはクラスは違っていたものの、心理学は二人共選択しており同じ授業を受ける日もありました。あの時発言していたら講義の内容が変わっていたかも：と後悔しました。消極的でも言うべき事は言える様になりたいと思いました。

二年生の時、当時ユースホステル部長だった友人の誘いを受け、アメリカでホームステイをしました。この旅を通して、自分がなんて小さな存在で、人前で恥をかき事ぐらい大した事ではないと気づきました。

卒業後は地元で病院の事務やヘルパーの仕事が続けられました。時間に追われ分刻みで診察する先生方、テキパキ動きながら患者さんを気遣う看護師、そして病気を克服しようとする患者さんからも教えられる事が多いです。いくつになっても受け身ではなく積極的に行動したいです。

熊本は良い所です。駅前も随分様子が変わりました。銅像もお待ちしていますので是非お越しください。母校卒業生の皆様、どうぞどうぞお元気で…。

育児の合間のイタリア語

国際コミュニケーション学科十二回

竹本 美咲

卒業して八年が経とうとしています。

現在は国内の航空会社に在籍し、結婚・出産を経て育児休業中です。『ちぐさ』の編集委員をされている一学年先輩でもあった河田知子さんにこの度お声をかけていただきましたので、入学及び卒業後のことについて振り返りたいと思います。

私は高校を早い段階で中途退学しましたが、二十歳の時に仕事のお休みをもらい、高卒認定試験対策の学校に四ヶ月通いました。その後無事に試験に合格することができ、地元広島を離れ戸板女子短期大学の国際コミュニケーション学科へ入学しました。

入学前は短大という就職するために専門知識を身につける場所というイメージを持ってい

たのですが、当時漠然と「学び」を求めていた私にとって充分すぎる短大が戸板女子短期大学でした。苦手意識がとぎも強かった英語や読書を好きになり、自分の知らなかった新たな一面に出会うと見える世界も変わり、もっと知りたいたい、学びたい、という欲求に繋がりました。まさに「知好楽」だと思います。所属学科を超えた総合教養科目では化学や健康学など幅広い分野の学びに触れることができ、学ぶことの楽しさを強く感じながら充実した学生生活を堪能しました。

そして現在は子育て中です。出産した日から生活は大きく変わり、子どもの世話をしているうちに一日が終わる、そんな毎日です。そうした日々の中でも週に一度、三時間夫に子どもを預け、自分だけの時間を取るようになっていきました。その「自分だけの時間」に始めたことは区民に開かれたイタリア語教室です。

クラスメイトは八名で三十八代までと幅広い年代層で、様々な背景をお持ちな方ばかりです。そのクラスでの共通点は食事です。授業がひと段落すると、各々お気に入りのイタリアンレストランのお店をプレゼンし合い、皆でお店を選び、イタリアの食事、団欒を楽しみます。ここで出会った方々は皆年齢を重ねても目がキラキラと輝き、意欲的に学ばれる姿はとて素敵で、私もそういう風に年齢を重ねたいと思いつつ、週に一度のレッスンを励んでいます。

子育て中のリフレッシュのためにと始めた教室でしたが、今ではそこにはかけがえのない仲間がいる、私の大切な場所となっています。また日々追われる時間から離れて物事に集中できる環境に身を置くことで、家族と過ごす時間をより楽しめるようになりました。

いくつになっても、時間を作って学ぶこと、吸収して楽しむこと、それを目標に年齢を重ねていきたいです。



# 交流会報告



## 宮崎県支部

### コロナ禍での偲ぶ会

令和四年十月三十日(日)  
会場 ホテルニューウエルシティ宮崎

生活科十八回 江藤 博子

心に澄み渡るような秋晴れのなか、三年振りに地元の大イベント「神武大祭」が十月二十九日三十日に行われました。支部会もコロナの影響で延び延びになつており、皆様との交流が出来ない「もどかしさ」を感じておりました。

そのような時、宮崎県支部の立ち上げからご尽力いただいた道休雅子様(生十三回)の急逝の知らせを受けて「偲ぶ会」を行うことになりました。参加者は四名でしたが、七名の方からは御供花をいただきました。

ご遺影に供花させていただいた後会食となり、思い出話で和やかに時間が過ぎました。

久し振りの会合では疲弊しきつた世界の情勢や高齢者の在り方、老々介護の現実等々の話で盛り上がりました。その歓談のなかで「生きることを楽しむこと」常に感謝の心で「と前向きなお話もでて、心温まる時を過ごすことができました。

またの再会を約束して散会となりました。



## 北部九州支部

### 「戸板」の絆と心意気

令和四年十月二十三日(日)  
長崎ハウステンボス内ホテルヨーロッパ「吉翠亭」

被服科十四回 松尾 寿々子

三年五ヶ月前、福岡の方が「次はチューリップの咲く頃、ハウステンボスでしたネ」と。ところがその後コロナが蔓延し、支部会を開催するような状況ではありませんでした。毎日、増えた減つたと一喜一憂しながら、でも皆さんに喜んでもらいたいという思いで、ハウステンボスの営業の方と打ち合わせを重ねました。また、心も体も健康にと校歌を口ずさみウオーキングで鍛えました。

当初は、チューリップ満開の四月二日を予定しましたが、一時期全国のコロナの感染者が急増し、長崎も同様に増えました。心は萎え酷暑続き、熱中症、家族陽性、台風被害と不安が続き、もう中止しかないと思念しかけてきました。秋になり少し状況も変わり、元気が出てきて、今年中にと十月二十三日に決めました。当日は、好天に恵まれ出席者は長崎二名、佐賀一名、北海道一名の合計五名でした。腹心の友、鞠子慧子さん(旧姓奈良岡)がサプライズで北海道からかけつけてくれました。十五年前の長崎「花月」で開催した時も参加してくれました。「清操寮」で二年間を一緒に過ごし、今も変わらず凛とした姿勢、立ち振舞いに、鞠子さんの出席は心強く、すぐに二十代にもどり交流を深めました。

「吉翠亭」でランチ、ラウンジでクラシックの生演奏を聴きながらコーヒータム、その晩は別荘風コテージにて宿泊しました。



## 千草会 支部紹介



支部名	支部長	卒業回数
北海道支部	大平 清美 (山下)	生活科 16回
群馬県支部 (連絡先)事務局	北爪 隆江 (原田)	生活科 15回
	近藤 二三枝 (武)	生活科 19回
北部九州支部	松尾 寿々子	被服科 14回
宮崎県支部	江藤 博子 (佐藤)	生活科 18回
福島県支部	休会	
栃木県支部	休会	

連絡をお取りになりたい方は、戸板女子短期大学同窓会事務局までご一報ください。

少人数でしたが家族(娘・嫁)の協力のもと「オータム灯りフェア」でゆつたりと時間が流れ、皆様からは楽しかったと言ってもらえ、コロナに振り回されながらも開催できたことにホッとしています。

現在役員は八十代前後と高齢で体力、気力も低下しております。今後は福岡、佐賀、長崎と北部九州三県で、継続可否か話し合いが必要と思われました。

北部九州支部は昭和六十年六月に高等師範科二十六回生の集いから始まり四十年、先輩諸氏の魂を受け継ぎ「戸板の絆」と心意気は消えることはありません。



# 戸板栄養士会だより



今年度もコロナ禍での生活が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。戸板栄養士会もオンラインによる活動を導入して三年目となり、試行錯誤しながらも、会員の皆様とのコミュニケーションをできる限り図っていきたくと考えております。今後ともご協力のほど、どうぞよろしく願いたします。

令和三年度末から令和四年度の活動をご報告いたします。

## 【令和三年度総会】

令和四年三月二十七日(日)

令和三年度戸板栄養士会総会をオンラインにて開催しました。同時に懇談会「みんなで話そう!」コロナ禍での仕事のあれこれ」を開催し、コロナ禍での苦勞や不自由さ、その中でもできた新たな取り組みや工夫などを参加者全員で話し合い、有意義な時間となりました。

## 【オンラインによる料理講習会】

令和四年九月四日(日)

料理講習会「百二十年前から思いはひとつ、食を通しての「知好菜」〜江戸東京野菜を学ぶ〜」をオンライン開催しました。講師には、佐藤勝彦様(「押しよしかつ」店主、「江戸東京野菜」著者)をお招きし、「本田うり」と「寺島なす」を使ったメニューを五品教えていただき、その後「江戸東京野菜」についてご講演いただきました。オンラインでの料理講習会は初めての実施でしたが、ご参加の皆様からはとても好評でした。詳細は、本学ホームページの「食物かわらばん」に掲載しています。#戸板栄養士会 #江戸東京野菜)で検索してみてください。

## 【TOITA Fes 2022<参加>】

令和四年十一月十二日(土)・十三日(日)

動画上映「料理講習会〜江戸東京野菜を学ぶ〜」と、パネル展示(戸板栄養士会の紹介)で参加しました。

## 【幹事会】

偶数月の第一火曜日(十八時三十分〜二十時)を定例会議とし、幹事二十二名で運営しています。今年度は六回すべてオンラインによる開催となりました。

## 【令和四年度総会(予定)】

令和五年三月二十六日(日)

令和四年度総会を開催します。また、戸板創立百二十周年の記念となるイベントも合わせて予定しています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。総会につきまして、会員の皆様には郵送(又はメール)にて、すでにご連絡しております。万が一、届いていない会員の方がいらつしやいましたら、左記、戸板栄養士会事務局までお問い合わせください。最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

## 【その他】

勤務先・住所・氏名の変更などは必ずご連絡をお願いいたします。また、新しく栄養士業務に就かれた方も会員として登録いたしますので、左記までお知らせください。

## 連絡先

〒一〇五・〇〇一・四  
東京都港区芝二丁目二十一番十七  
戸板女子短期大学 戸板栄養士会  
TEL 〇三・三四五・四二六一  
Eメール eiyoshi@toita.ac.jp  
ホームページ  
<https://www.toita.ac.jp/toitapicks/author/toitayoushikai/>

戸板栄養士会事務局 西山 良子

QRコードから  
ホームページへ  
アクセス



## 栄養満点おにぎりとお味噌汁 ~混ぜるだけ!主食・主菜・副菜が揃う手軽な1食レシピ~

- ④ 小鍋にだし汁をわかし、食べやすく切った具材を入れ加熱する。火を止めてみそを溶き入れる。



【栄養成分(おにぎり)】  
エネルギー396kcal  
たんぱく質15.3g  
脂質5.3g  
炭水化物70.7g

【栄養成分(お味噌汁)】  
エネルギー69kcal  
たんぱく質4.9g  
脂質4.0g  
炭水化物5.0g

### ポイント!

玄米を発芽させた「発芽玄米」は、白米と同様に炊飯できます。玄米より食べやすく食物繊維なども豊富。このおにぎりは包丁・火を使わずにできて食べ応えも充分!

## TOITA Fes 2022

実行委員長  
食物栄養科二年 竹内 彩耶香



私は前年度「司会」としてTOITA Fes 2021に参加しました。Fes終了後「二年間しかない短大生活を有意義なものにしたい、来年も頑張ろう」と思っていた時に、前実行委員長から推薦していただき、今年度は実行委員長として十一月十二日(土)・十三日(日)のTOITA Fes 2022に参加しました。しかし、今まで先頭に立ちたくさんの人をまとめるという機会がなかったことから、不安もありましたが、短大最大級の学園祭を作りあげたいと思いました。実行委員長として先頭に立ち、Individuality(個性)というテーマのもと実行委員一人ひとりの個性を生かし、一つのものを作り上げる気持ち

ちでTOITA Fesを運営しました。

今年夏Fes及び秋Fesを、新型コロナウイルスの感染リスクのある中でしたが、感染対策を行いハイブリット学園祭という形で開催できました。また、過去最大の一二〇名が実行委員として運営に携わり、ステージ企画、フロア企画に力を入れ活動し、さらに学生だけではなく先生方にも参加していただき、今までにないFesを作り上げることができました。

コロナ禍で様々な制約があり、思い通りのパフォーマンスができなかったチームもありましたが、照明をプロの方に依頼して設置したことで、本格的なステージを演出することができました。また、昨年までは音響関係の操作等は外部の方をお願いしていましたが、今年度は学生が全て管理したことで、全体的なレベルが上がり最高のTOITA Fesとなりました。

大変な事も多い中ではありましたが、たくさん仲間の支えがあったからこそ無事終えることができましたと感じています。当日には予定していた人数よりも多くの方々に来場していただきました。また、同時にYouTube生配信の視聴者数も昨年を上回りました。

このような学園祭を開催することができたのは、教職員の皆様や卒業生の皆様のサポートがあったからこそだと感謝しております。今後とも戸板の学生が輝ける場、成長し活躍できる場として学内最大のイベント「TOITA Fes」にお力添えいただけると幸いです。

最後になりましたが、今年度も戸板女子短期大学同窓会千草会様、戸板父母の会様からの多大なご支援を賜りましたこと、深く御礼申し上げます。



## 🏠 楽々♡ごはん👍 Vol.5

管理栄養士  
食物栄養科5回 井上 慶子

### おにぎり 材料(1人分)

- ・発芽玄米ご飯茶碗 1杯(170g)
- ・乾燥ひじき 3g
- ・ちくわ 1本(30g)
- ・冷凍枝豆 20さや
- ◎削り節 1袋半(3g)
- ◎白ごま 大さじ1/2
- ◎しょうゆ 小さじ1

### お味噌汁 材料(1人分)

- ・小松菜 1株
- ・油揚げ 1cm幅
- ・えのき 小1/4袋
- ・だし汁 150ml
- ・みそ 小さじ1強(8g)

### 作り方

- ① 乾燥ひじきは包装の表示通り水に戻す。
- ② ちくわは手で小さくちぎる。枝豆は解凍してさやから実を取り出す。①のひじきはザルにあげ水気を切る。
- ③ ボウルに発芽玄米ご飯、②、◎を入れ混ぜ合わせる。半量ずつラップでつつみ、好きな形ににぎる。

# 学生生活

## 私の戸板での二年間

服飾芸術科二年 長谷川 らん

二〇二一年四月、憧れ続けた戸板女子短期大学に入学をしました。高校一年生の時に初めて戸板のオープンキャンパスに参加し、この学校なら学びたい知識を身につけることができ、自分を変えられと確信しました。そして、想像していたよりも遥かに成長した新しい私に出会わせてくれたのが戸板女子短期大学です。

幅広い分野について学ぶことができるカリキュラムの中で、ファッションを中心にメイクやウエディングに関する知識と技術を身につけることができました。服飾芸術科で学んだ知識を活かして様々な資格取得にも挑戦をしました。色彩検定、ファッション販売能力検定、リテールマーケティング(販売士)検定を取得し、ファッション業界で活躍できる女性を目指しました。

入学してから半年後、アパレル販売員という夢を志し、履修モデルはファッションビジネスモデルを選択しました。専門的な知識を取得していく中で、最も力を入れて取り組んだことはファッションセールスセミナーで行われたプレゼンテーションです。先生から与えられたテーマに関して自分なりの視点で考え、調べ

を進めていくことで常に新しい発見をすることができました。プレゼンテーションでは何度も上位に選んでもらうことができ、アパレル販売員に必要な提案力を身につけることができた実感しています。

課外活動では、学生広報スタッフ「teamといたん」として活動をしました。昔からコミュニケーションを取ることをや人前に立つことを苦手としていましたが、オープンキャンパスで憧れた当時の学生広報スタッフの先輩方のように、たくさんの方の力になりたいと思い挑戦しました。高校生に対して自分ができることを考え、入試体験談と学科紹介のプレゼンテーションを担当したり、SNSを通して情報を発信し、高校生とのコミュニケーションを大切にしました。活動をやる中で辛いこともありましたが、オープンキャンパスで出会う高校生や保護者の方が、私との出会いを通して戸板に受験を決めてくださり、来校して良かったとお言葉をいただけるとの度にやりがいを感じました。そして「高校生が選ぶベストオブあなた賞」を二連覇をすることができ、心の底から嬉しかったです。

二年間の学生生活の中で、たくさんの挑戦する場所を与えてくれた戸板女子短期大学。企業コラボプロジェクト、ファッションショーやウエディングドレスのモデルなど、数え切れないほどの貴重な経験を、充実した学生生活を過ごすことができました。そして、嬉しいことも辛いことも共に乗り越えてきた尊敬す

る仲間との出会いは、私にとって大切な宝物です。卒業後も支えてくれる周りの人への感謝の気持ちを忘れずに、戸板で培ってきた力を活かしていきたいです。



「teamといたん」活動

## 将来の理想像をめざして

食物栄養科二年 酒井 陽美稀

私がずっと尊敬している先生が一人います。

多くの生徒を一人で見守る視野の広さや、並行してさまざまな業務を進める効率性、そしてなにより、生徒一人ひとりに寄り添い歩んでいくその優しさと厳しさにすごく感動し、この先生のようになりたいという将来の理想像を見つけることができました。

そんな理想像をめざし私は、学生が主体で、積極的に挑戦できる環境で、自分を変えるという大学の雰囲気に取り込まれ、戸板女子短期大学食物栄養科に進学を決め、二〇二一年四月に入学しました。時間が経つのが早く入学式からもう一年

半が経ち、最後という言葉をよく耳にするようになってしまいました。

私はこの間理想の将来像を目指し、様々なことに挑戦してきました。例えば「といたん」のリーダーや「TOITA Es 2022」新企画チームのリーダーや「戸板通り通過中」の運営や企業様の問題を解決する「産学連携」など様々なことへ積極的に挑戦してきました。

多くのことを経験していく中で私は「といたん」の活動に一番力を入れてきました。といたんの仕事内容としては、主にオープンキャンパスの運営・受験生の獲得・受験に向けて不安な高校生に寄り添うなど、学校の顔と言っても過言ではない活動です。私が一年生の時は他の同級生のといたんよりもオープンキャンパスへの参加や高校生の交流を大切にしてきたつもりです。たくさんの方のアイデアを提案したり、時には同級生のといたんと教えあったりすることで多くの知識を得ることができました。その結果二年生になって食物栄養科のリーダーに任命されました。

食物といたん四十一人をまとめるリーダーを任せられた時に、ただ指示を出し受験者目標数字の達成を促すだけでなく、どうすれば達成できるか全員を巻き込んで一緒に考えるようにしました。高校生が楽しんでもらえるようなオープンキャンパスにするために、例年よりも多くのイベントを企画したり、といたんが常に初心を思い出せるよう定期的に研修

を実施し、常にみんなの変化や周囲の声に気を配り、何か悩みがありそうな高校生や困っているような高校生には、負担にならないように悩み相談を個々に対応してあげることもありました。みんなをなるべく巻き込み、技術の向上と同時にモチベーションの管理をたくさんしてきました。オープンキャンパスに来ていただいた高校生や保護者の皆様には、期待以上のサービスを提供することを大切にしてきました。

オープンキャンパス内では私が持っている情報をできる限り伝えたり、SNSでの情報発信やDMでの相談にのり、自分のできる限りのことをして多くの高校生を支えてきました。その結果周りの人とは問題が起こった際には、必ず相談してもらえ、関係性を築く事もできました。さらには周りの友人や職員の方からは「いたんを引っ張ってくれてありがとう」「びびちゃんがいって良かった」という言葉や、高校生や保護者の方からも「びびちゃんのように娘もなつて欲しい」「びびちゃんがいたから受験頑張れました！戸板合格しました！」という嬉しいお言葉をたくさんもらいました。

戸板に来て本当に良かったなと心から思っています。戸板のおかげで少し将来の理想像にも近づくことができました。卒業しても今まで通り理想に向かって走り続けたいと考えています。更に英語を頑張ろうという向上心が芽生ええます。

## 戸板だからこそ輝けた二年間

国際コミュニケーション学科二年  
荒駒 瑞穂

私が戸板女子短期大学で過ごしたこの二年間は、間違いなく人生で一番濃く、全力で駆け抜けた二年間です。特にエアライン業界への就職と、学園祭に力を注いだ日々はとて大切な宝物です。

香川県で生まれ育った私は、幼い頃から空港で働くことを夢に過ごしてきました。その夢を叶えるべく、様々な分野を学びながらエアライン業界への就職準備ができる戸板女子短期大学へ進学しました。

上京したばかりの頃は、一人暮らしにも慣れず、知っている人は誰もいない心細さから、母に電話をかけて「もう帰りたい」と泣く日もありました。しかし、エアライン業界に関する実践的な学びや、勤務されている卒業生と関わる機会が刺激的で、同じ夢を持つ仲間と徐々に打ち解けることができました。何より、自ら挑戦できる機会の多い戸板での生活で、私は一歩ずつ上を向いて夢へ踏み出す力を身につけることができました。「本気でエアライン就職を目指すなら、チャレンジできることは全てしよう！戸板はそれを後押ししてくれる！」と思い、大学一年生の後期からは、英語授業のクラス昇進を申請し、学生消防団員としての活動や、毎年十一月に行われるTOTIA Fesの実行委員としての活動、そして就職のための自己分析などに取り組みました。

春先に始まった就職活動では、当

初、焦りと不安が私を押しつぶしました。今まで生きてきた二十年間をつぶさに振り返り、自分自身と向き合いました。私は自己PRに何を書いたらいいかを考えるのが苦手でしたので、先生に何度も相談し、自信をもって自分を表現する方法をみつけました。先生がこんなに親身になってくださるのも、戸板の魅力の一つだと思います。就職活動の面接が進む度に、エアラインゼミの仲間や先生からの心からの応援に胸がいっぱいになりながら、最後まで走り切ることができました。

二つ目の大切な宝物である学園祭「TOTIA Fes」には、二年間かけて力を注ぎました。一年生の時にはSNSチームという役割で、後夜祭に流すハイライト動画の作成を任命していただきました。プロジェクトや課題に追われつつも、動画作りを通してTOTIA Fesで輝く皆さんの姿を一番近くで見ることができました。学園祭が成功した時の達成感や、そこに自分が関わったことへの喜びは、自分への何よりの褒美となり、翌年も続ける決意となりました。

一月にFes 実行委員の先輩から「来年度は瑞穂が副実行委員長としてFesを引っ張ってほしい」とお声がけしていただき、TOTIA Fes 2023の実行委員を喜んで引き受けました。学生が運営している学園祭であり、一人ひとりが責任感を持って取り組む一大イベントですので、その中で実行委員として活動できることは誇りでした。今年度は、企業様に学園祭への協賛をお願いしに伺うなど、大きな挑戦をさせてもら

こともできました。対外的な仕事に加え、去年に引き続きSNSチームで活動リーダーをも担当して、より大きな責任を担うことで去年見えていなかったものに気づくことができるようになりました。不安や重圧は去年とは桁違いでしたが、学園祭を通して出会う人との繋がりが一つひとつに感謝しながら挑むことができました。ともに実行委員を担当した仲間や先生方に支えられ、TOTIA Fes 2023を成功させることができました。

この二年間は、先生方の大きなサポートと出会った友人たちとの支え合い、そして何より、離れていてもどんな時にも、励まし応援してくれた家族がいたからこそ走り切ることができました。沢山の人のあたたかさに触れ、自分がどんなに幸せで愛されているかを、改めて知ることができた戸板での生活は、これからの人生にも温かく残る財産です。



TOTIA Fes 実行委員の仲間たち

# 会務報告

## 1 行事報告

二〇二二年（令和四年）

四月一日 入学式に来賓として出席（会長）  
四月十四日 役員（会長・副会長）会議、二〇二二年度  
第一回常任幹事会開催について検討

四月十七日 『ちぐさ』第六十六号二年生に配布依頼  
第一回常任幹事会  
二〇二二年度経過報告、二〇二二年度  
行事計画案、二〇二二年度予算案検討  
事項（TOITA Fes 2022への支援金、支  
部アンケート結果による支部助成金、  
各係・委員会の会計処理）、幹事会開催  
に、次期常任幹事候補、その他  
企画会議

五月十二日 奨学金委員会  
五月十三日 奨学金公募締切  
五月二十二日 第二回常任幹事会  
二〇二二年度決算報告、二〇二二年度  
行事計画案、予算案、就業規則案、奨学  
金制度の変更、その他  
奨学生志願者面談  
奨学生選考委員会  
会計監査  
幹事会

五月二十六日  
六月九日  
六月十四日  
六月十九日  
二〇二二年度経過報告、決算報告、会計  
監査報告、二〇二二年度行事計画案、予  
算案、その他  
事務員の傷害総合保険更新手続き完了  
幹事会欠席幹事へ書類送付  
第三回常任幹事会  
TOITA Fes 参加について 支部支援  
金の変更、奨学金規定案の見直し、千草  
会就業規則案の見直し、その他  
千草会就業規則施行  
『ちぐさ』六十七号編集会議 内容検討、

八月一日  
八月二十五日

八月三十一日  
九月七日

執筆者選定  
二〇二二年度入学生の会費入金  
経常費の予算額を三係（企画・庶務・会  
計）、三委員会（ちぐさ編集・支部・奨学  
金）に振込  
二〇二二年度奨学生へ奨学金の振込  
支部助成金の振込（北部九州支部・宮崎  
県支部）  
二〇二二年度第一回目奨学金授与式  
『ちぐさ』編集会議 執筆依頼、発送  
二〇二二年度第二回目奨学金授与式  
北部九州支部会 於 長崎ハウステン  
ボス内ホテルヨーロッパ「吉翠亭」  
学位記ホルダーの発注  
十月二十五日 宮崎県支部会 於 ホテルニューウエ  
ルシテイ宮崎  
十月三十日  
十一月十二日  
十一月十三日  
十一月二十四日  
十一月三十日  
十二月一・十五  
十二月二十二日  
十二月二十三日  
二〇二三年（令和五年）

九月二十九日  
十月六日  
十月二十三日  
十月二十五日  
十一月十二日  
十一月十三日  
十一月二十四日  
十一月三十日  
十二月一・十五  
十二月二十二日  
十二月二十三日  
二〇二三年（令和五年）

一月～二月下旬  
二月二日  
二月八日  
三月十日  
三月十四日  
三月下旬

『ちぐさ』編集会議 校正  
役員（会長・副会長）会議  
二〇二二～二〇二四年度幹事依頼葉書発送  
『ちぐさ』第六十七号発行  
『ちぐさ』編集会議 稿料、謝礼の整理  
と発送  
卒業式に学位記ホルダー贈呈  
『ちぐさ』六十七号配布  
卒業式に来賓として出席（会長）  
第四回常任幹事会  
二〇二二年度経過報告、二〇二二年度  
行事計画案、その他  
各係・各委員会会議  
二〇二二年度決算、二〇二二年度行事

## 2 新役員・新幹事紹介

計画案（企画係）、予算案作成  
会計係は千草会の二〇二二年度納入会  
費および寄付金の整理、二〇二二年度  
決算、二〇二二年度予算案書類の作成  
二〇二三年度の行事案は、改めてホームページ上にて  
お知らせいたします。

二〇二二年四月より新常任幹事、新幹事になられた方  
を紹介いたします。新幹事の任期は、二〇二五年三月ま  
です。

新常任幹事  
被服科 渡部 夏美（28回）  
新幹事  
食物栄養科 中條 璃子（19回）  
二〇二二年三月卒業の新幹事  
服飾芸術科20回 鈴木 千春 鈴木 美玖  
井口 翔琳 向田 愛里  
峰 柚紀  
食物栄養科21回 牛山 実咲 加藤 陽奈  
澤井ななみ 土屋 葵  
国際コミュニケーション学科19回 神作 彩海 大竹 彩音  
金山 夏実

## 3 会計報告

二〇二二年（令和四年）の幹事会において、二〇二二年度  
決算、二〇二二年度予算案が承認されましたので、ご  
報告いたします。

■奨学金について  
二〇二二年（令和三年）度の奨学生は、三科六名でした。  
各三十万円を六名に、合計百八十万円を支出いたしました。  
なお、新型コロナウイルスの影響により、後期授業料の支援と  
して各三十万円を一括支給としました。

■会員会費について

二〇二二年度の会費納入者は、学生会費四百七十三名・年会費五名でした。

■雑収入について

二〇二二年度ご寄付を一名の方より頂戴いたしました。  
小林千春前学長

■学生会費について

学生会費は、「TOITA Fee」の支援金と、卒業生への記念品(学位記ホルダー)代として支出いたしました。

■会費納入について

会費納入方法が一九七八年(昭和五十三年)三月に切り替わっています。

一九七七年(昭和五十二年)三月以前に卒業された方は、年会費(千円)あるいは終身会費(一万円)のいずれかの納入方法を選択することができます。この納入制度切り替え時以後、未納の方には、会報誌『ちぐさ』をはじめ同窓会からのご連絡が途切れています。

会費の納入をお願いいたしますとともに、ご友人にもお伝えいただければ幸いです。また年会費の方は、既定の振替用紙でご送金ください。

なお、一九七八年(昭和五十三年)三月以降の卒業生は終身会費で納入されております。

4 同窓会事務室からのお知らせ

昨年三月『ちぐさ』六十六号を皆様のお手元にお届けしてから、住所不明者として四百九十三通が戻ってきました。大変残念に思っております。毎号『ちぐさ』の誌面でもお願いをしておりますが、住所変更や改姓の折には、出身科・卒業回数または卒業年・クラスなどを書いて、同窓会事務室までがき・FAX・メールなどでご連絡ください。なお、お電話でのご連絡は、間違いの原因にもなりますのでお控えください。

なお、同窓会事務室の開室時間・担当者は下記の通りです。

事務室開室時間・担当者

・月曜日～金曜日

九時四十五分～十六時三十分

(十二時～十二時四十五分まで休憩時間)

事務担当者 古閑 美和(被服科41回)

・水曜日

九時四十五分～十五時三十分

(十二時～十二時四十五分まで休憩時間)

事務担当者 有川 美代子(被服科42回)

住所・電話・FAX番号

戸板女子短期大学同窓会千草会

〒105-0014 東京都港区芝二丁目二十一-17

電話・FAX 〇三・三四五二・四一六九(直通)

メールアドレス chigusa@st.toitia.ac.jp

戸板女子短期大学のホームページから同窓会千草会のホームページへリンクしております。年間行事予定や行事報告などの最新ニュースを載せておりますので、是非ご覧ください。

ホームページ <https://www.toitia.ac.jp/>

QRコードから  
ホームページへ  
アクセス



同窓会千草会奨学生

二〇二二年度の同窓会千草会奨学生は、選考委員会において書類審査、面接を行い、服飾芸術科一名、食物栄養科三名、国際コミュニケーション学科二名の計六名を選定しました。奨学金授与式は、九月二十九日(木)と十月六日(木)の二回に分けて、学長白川はるひ先生、服飾芸術科科長井上近子先生、食物栄養科科長川嶋比野先生、国際コミュニケーション学科学科長松井恵美子先生、短大事務局長中村素行様にご出席をいただきました。

この奨学金は、二年生を対象に学業の継続に奨学金を必要とする学生の中から、勉学の意欲に燃え、かつ人物良質な方に支給するものです。同窓会千草会は母校の発展と人物育成のために、この支援を続けています。

奨学生のお名前は、個人情報保護法により記載を差し控えていただきます。

ちぐさ編集委員会からのお願い

「ちぐさ」に対する皆様のご意見やご要望をお聞かせください。

学校のこんなことが知りたい、こんな記事を望んでいる、また「人物紹介」お便りコーナー」欄についても、このような方がいらつしゃるなどのご紹介や情報を是非お寄せください。

編集委員会では今まで知りうる限りの方々に執筆をお願いしてきましたが、多くの同窓生がいらつしゃるにも関わらず、情報が少なく苦慮しております。できるだけ多くの皆様を掲載し、ご紹介させていただきたいと考えております。自薦、他薦を問いませんので、よろしくお願いたします。

ご連絡は手紙、FAX、メールなどで、同窓会事務室宛(上記記載)にお願いいたします。なお、ご自身の出身科・卒業年・連絡先も併せて、お知らせください。

多くの「意見や情報をお待ちしております。」

# 悼 む



新井一彦先生

● 英文科二十三回 山口順子  
 昨年三月、お嬢様から「安らかに  
 永遠の眠りにつきました」とのご連  
 絡をいただきました。

名誉教授新井一彦先生は昭和五  
 十年より平成十二年までご勤務さ  
 れ、戸板学園理事、英文科科长の重  
 責を担っておられました。アメリカ  
 文学をご専門とされ、特にウイリア  
 ム・フォークナーの研究では素晴ら  
 しいご功績を残しておられます。英  
 文科から英語科、現在は国際コミュ  
 ニケーション学科と科名が変更に  
 なりましたが、当時の英文科の受験  
 者数は二千名を超え、試験会場の教  
 室も旧校舎の教室だけでは足りず、  
 中高部の教室までお借りして実施  
 しておりました。コンピュータが導  
 入される前の時代でしたので、採  
 点・集計は長時間に及び、先生が陣  
 頭指揮をとられ午後十時を過ぎた  
 ことも懐かしい思い出となっております。

教職クラスがあり、Teaching Plan  
 等細やかなご指導もいただきました。穏やかなお人柄は学生達から大  
 変慕われておりました。また学生達  
 に幅広い知識と豊かな教養を身に  
 つけてほしいと、遠藤周作氏、天野  
 祐吉氏、倉嶋厚氏、長岡輝子氏など  
 著名な方々を招き、学内講演会も開  
 催しておりました。英文科紀要『英  
 米文学』のご執筆ならびに編集にも  
 ご尽力をいただきました。

ご多忙の日々にもかかわらず、同  
 窓会千草会には常に温かなお気持  
 ちをお寄せくださり、総会にはご臨  
 席をいただき、卒業生との親睦を深  
 めてくださいました。また同窓会誌  
 『ちぐさ』にも幾度となくご寄稿く  
 ださり、「皆さん、しばらくです」と  
 近況をお寄せいただきました五十  
 四号が最後となりましたことを、大  
 変残念に思っております。

先生は真面目なご性格で朝日新  
 聞の『天声人語』の英訳を日課とさ  
 れておりました。一方、温泉地巡り  
 など大変ご旅行がお好きで、お出か  
 けになられお土産を頂戴したこと  
 もございました。元理事長・学長で  
 おられた青木英夫先生の時代、理事  
 として厳しさを増した学校運営に  
 もご尽力を賜り、英文科を育ててい  
 ただきました。心より深く感謝申し  
 あげます。

謹んで新井一彦先生のご冥福を  
 お祈り申しあげます。



増田節子先生

● 英文科四十一回三輪 タ里子

昨年の十二月十一日、増田節子先  
 生がご逝去されました。先生は永年  
 戸板女子短期大学英文科(現国際コ  
 ミュニケーション学科)にて教鞭を  
 執られ、大きな業績を残された名誉  
 教授でいらつしやいました。ご専門  
 はアメリカ文学、特に、Katherine  
 Anne Porter 等女流作家に造詣  
 が深く、多くの論文を発表しており  
 ます。また、英文科発行の紀要『英米  
 文学』(一九六八〜一九九〇年)でも  
 ご尽力され、新井一彦先生とともに  
 英文科を育ててくださいました。

英文科第一回の卒業生でもい  
 らつしやる先生は、同窓会において  
 も常任幹事として、また会長(一九  
 九九〜二〇〇六年)として千草会を  
 導いてくださいました。会報誌『ち  
 ぐさ』では一九五六年(昭和三十一年)  
 の初版の発行から編集委員として  
 携わり、中心的な役割を担いなが  
 ら母校の状況や同窓生の近況など  
 を届けていただきました。学校や同  
 窓会にとって、とても大きな存在の  
 先生でした。

増田先生には学生時代から長い  
 間お世話になりました。いつも温か  
 く時に厳しくご指導くださいまし  
 ました。二年次講読で読んだCapoteの  
 『Miriam』、小さな字がぎょしりの

テキストを見て、内心「うわあ、予習  
 が大変だ!」と思ったのが、読み始  
 めたら夢中でした。訳してしつくり  
 こない所は先生の解説を聞き「あ  
 あ!ここはこういう解釈だったの  
 か」と日々学び、いつの間にかこの  
 ちよつと怖くて寂しげで不思議な  
 物語のとりこになりました。卒業  
 後、会社を辞めて意気消沈のまま  
 伺った折には「あなた、ランチはま  
 だよね?」と、三田通りの中国飯店  
 へ連れて行ってくださいました。高  
 級店の広い円卓に先生と二人、とて  
 も緊張しましたが、あの時初めてい  
 ただいた大根餅はととても美味し  
 かったです。クラシック音楽もお好  
 きでした。CMで流れていた曲を知  
 りたくて、雑誌の折に伺つたら、私  
 の乏しい情報から見事に突きとめ  
 てくださいました。エルガーの『威  
 風堂々』今も大切にしております。

小柄でエレガントで笑顔の可愛  
 らしい先生は、綺麗なものが大好き  
 で音楽、お花、洋服、そして綺麗な  
 心。「物はずつとは持ちきれないけ  
 ど、心や想いはずつと持つていら  
 れるのよ」とお嬢様におつしやった  
 とのこと。私も日々を大切に、少し  
 でも綺麗な心を保つて生きていき  
 たいと思いました。新校舎で過ごし  
 た時間も長いのに、想い出深いのは  
 旧校舎の景色、教室、あの古い研究  
 室。木製のキツツキのドアノックが  
 ついたあのお部屋にいらした笑顔。  
 本当にたくさんのお話をいただき、  
 心の栄養となりました。ご冥福をお  
 祈りいたします。心よりの感謝をこ  
 めて『Miriam』を讀みつ...

# 悼 む



星野厚子先生

●生活科三十六回 西山良子

星野厚子先生が、二〇二二年一月十四日(享年八十四歳)逝去されました。

永年、本学で教鞭をとられ、臨床栄養学や栄養学各論の講義、実習等多くの科目を担当され、また二〇〇〇年からは食物栄養科科長を務められ、学科のためにご尽力されました。学生募集の厳しい折、その対策でご苦労も多かったと存じます。二〇〇四年食物栄養科が八王子から三田に移転し専任教員をご退任されましたが、その後も非常勤講師としてご教授いただきました。授業はもちろんです、クラブ活動(バドミントン部や食べ歩きクラブなど)でも、合宿や戸板祭など積極的に学生と共に過ごし、楽しい思い出が残っている卒業生も多いことと思います。私も戸板入学から、先生にはクラスアドバイザーとしてお世話になり、卒業後は副手として特殊栄養研究室にてご指導いただき、早三十年以上となりまして。先生は

とにかくパワフルでそのパワーは周囲にも自然と広がり、今でも私はその思い出に触れると不思議と元気が出てきます。

ご退職後は八王子でのご講演や地域活動、郷土食の調査研究にご活躍で、私も娘を連れて参加し勉強させていただきました。最近はお目にかかる機会が減りお電話がほとんどでしたが、二〇二一年末には変わらぬお元気なお声で、八王子での仕事のことや本の執筆のことなどお聞かせくださり、私に労いと励ましのお言葉をくださいました。そのため、およそ二ヶ月後の計報は本当に信じられませんでした。先生には、人一倍お世話になりながら何のご恩返しもできず、しばらくお目にかかれなかつたことが大変悔やまれます。

先生がいらっしゃらなければ今の私にはいなかかったはずで、本当に感謝しかありません。ご恩返しできなかつた分、今後も先生の教えを実践し、先生のように周りに元気を与えられる人になれるよう努力して参りたいと存じます。星野厚子先生、本当にありがとうございました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 永眠者

●令和4年(二〇二二年)に亡くなられた方

- 鈴木 登代子 (竹内) 高等師範科26回
- 山口 アイ子 (高張) 高等師範科29回
- 井上 文子 (新井) 高等師範科31回
- 増田 節子 (渡辺) 英文科1回
- 安藤 奈保美 被服科49回
- 吉本 和子 (海村) 生活科4回
- 道休 雅子 (佐藤) 生活科13回
- 追 照美 (小沼) 生活科17回
- 清水 里美 生活科22回

●令和5年1月末までにご連絡をいただいた方

- 小沢 しげ (福田) 中等教員養成科29回
- 尾崎 きみ子 (志村) 中等教員養成科31回
- 清水 けん (大竹) 高等師範科17回
- 大野 里子 高等師範科26回
- 岩井 のぶ子 (江沢) 高等師範科33回
- 遠藤 博子 (多田) 英文科28回
- 今井 美穂子 (瀬戸) 英文科38回
- 鶴岡 知子 英文科46回
- 杉 弘子 (大沢) 被服科8回
- 北村 澄子 (北村) 被服科8回
- 内田 美津江 (内田) 被服科8回
- 浅井 収美 (岡部) 被服科25回
- 小島 紳子 被服科29回
- 品田 玲子 (本杉) 被服科29回
- 石澤 亜希子 (井口) 被服科39回
- 天野 公美子 被服科41回
- 呉羽 道子 (田淵) 被服科12回
- 真智 悦子 (佐藤) 生活科5回
- 二宮 育美 (正田) 生活科35回
- 円谷 康子 生活科37回

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 編集後記

●正会員になられた皆様、ご卒業おめでとうございました。皆様をお迎えし、大変心強く嬉しく存じます。皆様のご活躍とご健康を祈念致します。

●学長先生はじめ各学科科長も新しい先生方になられ、学校の体制が大きく変わりました。学生募集の厳しい時代、学校見学も数多く開催されての広報活動、魅力あるカリキュラム作りや学生への細かなサポート等、日々ご尽力されておられることに感謝申し上げます。

●新井一彦先生、増田節子先生、星野厚子先生が鬼籍に入られました。寂しい限りです。

●増田先生は千草会会長をも含め、永い間常任幹事をお引き受けくださり、またちぐさ編集にもお力を注がれ、同窓会千草会にひとかたならぬご尽力を賜りました。深く感謝申し上げます。先生方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

●二〇二〇年初頭より始まったコロナ禍は、ちぐさ編集会議にも影響を及ぼし『ちぐさ』六十五号からページ数を減じて発行してきました。今号では従来の二十八ページに戻す努力をしましたが、前号に引き続き二十四ページになりました。コロナだけでなく、諸事情を考えると暫くはこのページ数が続きそうです。

●ペーレイアウトの関係で「栗々ごはん」が十二、十三ページの二段で二面に亘りました。少し読みにくいかと思いますが、ご理解をお願い致します。

●卒業生数を確認する作業をしました。戦時中、学生数は劇的に減りながらも学問を続けられた先生方、先輩方にお一人おひとりの人生を垣間見ながら百二十年の歴史を感じました。平和でなければ学問を続けることはできないと実感しました。

●ロシアによるウクライナ侵攻は、前例のないほど私たちの心を傷つけ、またエネルギー価格の高騰を招き、生活にダメージを与えました。世界は繋がっていると認識せざるをえません。学生が学び、平穏な生活が営まれるためには、平和がいかに大切であるか、改めて考えました。

●昨年十一月にはサッカーワールドカップが開催され、日本選手の活躍には目を見張りました。カタールまで応援に行ったサポーター達の試合後のゴミの片づけは世界の人々から賞賛され、日本人として誇りに思いました。改めて日本の文化、習慣を後世に伝えるべきと実感しました。

ちぐさ編集委員

# 卒業生や企業との『つながり』が戸板の新たな学びに

同窓会千草会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。  
教職員一同、「魅力ある戸板女子短期大学」づくりに取り組んでいます。

## 2022年の活動報告

### 学生ボランティア団体「TOITAアンバサダー」

ボランティア活動やイベントなどへの参加を通して、地域の方々との交流、学生同士のコミュニケーションの場として社会性を育てています。地域の活性化や若い世代の参加促進に取り組み、社会に貢献しています。ようやく日常生活が戻りつつあり、活動の範囲も広がって参りました。



港区主催  
「MINATOシティハーフマラソン」



港区立エコプラザ「こども自然教室」  
(本学屋上庭園にて収穫補助)

### 服飾芸術科

#### WEGOと産学連携プロジェクト 「原宿竹下通り店をプロデュース」

WEGOからの課題、店舗でショッピングしたくなる仕掛けを提案しました。原宿を盛り上げるべく、若い発想を生かして様々なアイデアで課題に取り組みました。優秀チームは実際に店舗のプロデュースを行わせていただきました。



### 食物栄養科

#### フレッシュネスバーガーと産学連携プロジェクト 「20代向けの商品提案」

フレッシュネスバーガーからの課題、「大人のバーガーカフェにふさわしい20代向けの商品提案」に取り組みました。見映え、味、価格などヒアリングを行い、商品開発に取り組みました。優秀チームの企画は商品化されました。



### 国際コミュニケーション 学科

#### 「成田空港×航空博物館」 コラボレーションイベントに参加

エアラインゼミの学生が、人気の空港イベントにおもてなしスタッフとして参加しました。成田空港に隣接する閉館後の航空博物館を利用したスペシャル仕様の絶景ダイニングで、美食あり、LIVEありの極上の宴の時間を彩る貴重な体験となりました。



## 同窓生子女入試のご案内

二親等以内に卒業生がいる方に向けた入試を実施しております。入学金の半額免除（125,000円）の奨学制度もございます。詳細は本学ホームページよりご参照ください。

ご卒業生の皆様、在学生応援のために企業連携やOG訪問にご協力ください

企業連携やOG訪問にご協力頂ける方はお気軽に下記までご連絡ください。

●お問い合わせ・お申し込み

短大事務局

TEL 03-3452-4161 (代表)

入試・広報部

TEL 03-3451-8383 (直通) 澁谷・堀江  
E-mail [ao@toita.ac.jp](mailto:ao@toita.ac.jp)

LINE  
公式アカウント  
お問い合わせはこちらへ



『ちぐさ』第67号

編 集 ちぐさ編集委員会  
発 行 日 2023 (令和5) 年3月10日  
発 行 者 東京都港区芝2-21-17  
戸板女子短期大学同窓会  
千草会  
TEL/FAX  
03-3452-4169 (直)  
E-mail  
chigusa@st.toita.ac.jp

ホームページ  
<http://www.toita.ac.jp/>

制 作 エックスデザイン株式会社

# CHIGUSA

